

(6) 戦略的重点プロジェクト

重点方針①：世界に誇れる山岳にふさわしい街並み・滞在空間の整備

白馬の山岳資源・山岳景観は、本村の最大の資源であると誰もが共通で認識している。一方で、これらにふさわしい麓の街並みや景観ができていないかという多くの課題がある。

今後、人口減少による空き家の増加、外部資本の参入による新規開発なども想定されるため、既存の景観の修景などに加え、開発を適切にコントロールしていくことが必要となる。また、来訪客の導線をふまえた「リゾートとしてのランドデザインの提示と推進」を新たに施策に追加する。

戦略的重点プロジェクト	戦略	施策	具体的施策	行政評価	民間評価
1. 白馬連峰への眺望の魅力最大化プロジェクト	1. 観光の資産価値の最大化	1-1. 山岳景観の魅力向上	①白馬連峰の眺望スポットの抽出	3.1	3
			②白馬連峰の景観の魅力最大化		
		1-3. 滞在空間としての魅力向上	①景観のコントロールによる滞在魅力の向上	3.3	2.8
			②オープンスペースの創出による滞在魅力向上		
		⑤リゾートとしてのランドデザインの提示と推進(新規)			

< 施策の取り組み例 >

【1-1-3】

- 来訪客の導線を意識した観光地としてのランドデザインの提示（1-1-3⑤として新規追加）
- インフラやサービスの連携によるスマートリゾートの実現（キャッシュレス対応、Wi-fi 整備、白馬ならではの環境配慮型二次交通の整備などスマートリゾートの実現）
- 「白馬村景観計画」（策定中）に基づく街並み整備（電線地中化、駅周辺の再開発、視点場の創設、開発コントロールなど）
- 古い建造物の改修・撤去（オリンピック施設のリニューアルや活用方法の検討、古いリフトの撤去、空き家の整理（戦略 1-2-③）、古い看板の撤去など）
- 住民、来訪客が滞在したくなる居心地のよいサードプレイスの検討

【3-7-1】

- 「HAKUBA VALLEY エリア景観デザインコード計画」に基づくサイン整備
- 顧客目線でのシームレスな情報提供の実現（情報発信媒体の整理、DX を活かした情報提供システム）

重点方針②：持続可能を実現するための観光産業の構造改革

白馬村における観光を持続可能なものとするためには、特に宿泊業を中心とした観光産業の生産性を高め、商品やサービスの質を高めていくことで、安定した収入を得られるように（＝次世代に引き継ぎたいと思えるように）する必要がある。特に宿泊産業の生産性の向上、商品の価値向上、域内調達率の向上に向けた取り組みを行う。

また、本重点方針と関連性の高い「戦略5：地場産業と連携した地域経済の強化」は戦略的重点プロジェクトに格上げとする。

戦略的重点プロジェクト	戦略	施策	具体的施策	行政評価	民間評価
2. 白馬村の核となるスキー場と宿泊拠点の再生プロジェクト	4. 宿泊施設とスキー場の再活性化	4-1. 宿泊施設の戦略的な活性化	① 宿泊施設のサービス形態見直し・多様化による競争力強化	2.2	2.3
			② 宿泊施設のサービス共通化による効率化		
		4-2. スキー場の戦略的な活性化	① スキー場の施設更新による競争力強化	3.7	3.2
			② スキー場のサービス共通化による効率化		
戦略5 地場産業と連携した地域経済の強化 (戦略的重点プロジェクトに格上げ)	5-1 地場産品の活用促進		① 地場産品の流通ルートの確保 (格上げ)	3.0	2.2
			② 地場産品の販売拠点の強化 (格上げ)		
			③ 白馬産食材を提供する飲食店の強化 (格上げ)		
	5-2 域内調達率の向上		① 販売商品や原材料の域内調達率の向上 (格上げ)	1.6	2.5
② 観光産業の地元雇用率の向上 (格上げ)					

< 施策の取り組み例 >

【2-4-1】

● 「宿泊産業イノベーション研修」参加者によるプロジェクト実施

【例】

- ・ 複数の宿泊施設の連携による効率化（共同購入によるコスト削減、送迎バスの共同運行、人手不足時のスタッフの相互連携等）
- ・ 宿泊施設の生産性向上
- ・ 宿泊施設における環境負荷低減の取り組み（戦略3-1-②宿泊施設のエコ認証制度の創設）
- ・ 個々の宿泊施設の経営力の向上
- ・ 宿泊産業活性化ファンドの創設

- ・ 宿泊施設の食の質の向上
- ・ 価格商売から価値商売への転換、滞在体験のトータルコーディネート
- ・ 宿泊形態の多様化

【2-4-2】

●国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業「世界から選ばれる山岳高原地域の構築を目指す取り組み計画」の推進（HAKUBA VALLEY TOURISM）

【5-2】

- 観光産業の域内調達率の算出と周知
- 地元（周辺エリア含む）の食材の掘り起こしと商品としてのブラッシュアップ

重点方針：③白馬の最大の魅力である自然環境の保全

白馬の最大の魅力である自然資源と持続的に共存していくことに加え、世界の観光地と肩を並べるためには、環境に配慮した取り組みを強化することが今後さらに求められる。

既存の施策に「3-1. 自然環境資源の保全」が含まれているものの、今後はSDGsというキーワードが重要になるため、新たに「④地域全体でのSDGsの取り組み」を追加する。一方で、既存の環境関連の計画が多いため、後期は全体を俯瞰した上で各主体との役割分担を明確にし、実行に注力する。

戦略的重点プロジェクト	戦略	施策	具体的施策	行政評価	民間評価
3.国際リゾートにふさわしい受入環境整備プロジェクト	3. 観光の魅力要素の次世代への継承	3-1.自然環境資源の保全	①水資源の保全活動の推進	2.2	2.6
			②宿泊施設のエコ認証制度の創設		
			③エコカーや電気自動車、自転車の導入推進		
			④地域全体でのSDGsの取り組み（新規）		

<施策の取り組み例>

【3-1】

- 「HAKUBA VALLEY SDGsビジョン」（2020年10月）の推進
- 「ゼロカーボンシティ宣言」（2020年2月）に基づく取り組み（2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロに）
- マテリアルフロー分析による取り組みの具体化

重点方針：④多様なリスクに柔軟に対応するレジリエンス力の強化

近年は地震、豪雨、台風などによって予期しない被害をもたらす自然災害が頻繁に起こっているほか、新型コロナウイルスのような世界レベルでの感染症など、長期にわたって影響を及ぼすものもある。このように突然起こるショック的要因に加え、人口減少や少子高齢化など、予測可能であるが長期にわたって影響を及ぼすストレス的な要因など、地域を取り巻くリスクは多様化している。こうしたリスクにしなやかに柔軟に適應できるレジリエントな観光地になるためのマネジメントを行う。

戦略的重点プロジェクト	戦略	施策	具体的施策	行政評価	民間評価
3.国際リゾートにふさわしい受入環境整備プロジェクト	7.誰もが安心して観光受入体制の構築	7-3.危機管理体制の構築	①災害発生時等に対応する危機管理体制の構築	2.9	2.5

<施策の取り組み例>

【7-3】

- 「白馬村観光防災マニュアル」の浸透
- 関係機関（医療機関、保健所等）との連携強化と関係者のネットワークづくり
- DCM（destination continuity management）の検討とレジリエントな観光地に向けた体制づくり

重点方針⑤:世界と差別化する白馬ならではの戦略的なコンテンツづくり

オールシーズン化を意識し、白馬ならではのマウンテンリゾートを多様な側面から楽しめる魅力づくりを行う。

アクティビティについてはライト層からヘビー層まで多様なレベルに合わせた提案を行う。また、前期取り組みが弱かった白馬村独自の魅力として歴史・文化資源を活用した魅力づくりも重点的に行う。

戦略的重点プロジェクト	戦略	施策	具体的施策	行政評価	民間評価
4. 魅力の多様化に向けたコンテンツ創出プロジェクト	1. 観光の資産価値の最大化	1-3. 滞在空間としての魅力向上	①雨天時に対応可能な拠点づくり	3.3	2.8
			②屋内外でのアクティビティ充実		
	2. 白馬村を訪れ滞在する価値の多様化	2-1. 季節それぞれの新しい楽しみ方の創出	②スポーツプログラムの強化	3.4	3.7
			①白馬産食材の地産地消の推進		
			2-2. 食と温泉を活用した滞在魅力向上	③温泉の特色を生かした魅力づくり	2.9
2-3. 歴史・文化・芸術資源の継承・活用	①歴史・文化資源の発掘と活用	②歴史・文化資源を活用したプログラム開発	2.3	1.3	

<施策の取り組み例>

【4-2-1】

- 季節ごとに楽しめるアクティビティプログラム（経験度別）の充実
- リゾートテレワーク、ワーケーション等の新しい滞在スタイルの提案

【4-2-2】

- 生産者との連携による地元産品の付加価値向上、商品開発、食の魅力づくり（質の向上、景観×食）

【4-2-3】

- 住民も観光客も楽しめる文化芸術プログラムの創出
- 里山集落の保全と連携（住民との合意形成や認定ガイドによるガイドプログラムの実施等）
- 人（顔）の見える化（観光産業従事者として迎え入れる方々、自ら白馬での暮らしを楽しむ住民の方々等）

重点方針⑥：世界水準に向けた取り組みを確実に実行するための基盤整備

観光地としての持続可能性を高める基盤に関する課題については計画策定当初から、

- ①白馬村全体や白馬エリアとしての全体最適化に向けたビジョンの共有
- ②多様な関係者による観光推進体制の構築
- ③地域の実態を把握するための統計の整備

が挙げられていたが、後期目標を実現する上では、引き続き重要な課題である。

特に、観光推進の体制づくり、財源確保、統計の整備は全ての取り組みの基盤となるため、元々戦略としてあった「6. 観光を支える担い手の育成・支援」「9. 計画推進体制の構築と財源の確保」「10. 計画推進の基盤となる統計の整備」を「戦略的重点プロジェクト6：「世界水準」を実現するための基盤づくりプロジェクト」として格上げして取り組むこととする。

戦略的重点プロジェクト	戦略	施策	具体的施策	行政評価	民間評価
6. 「世界水準」を実現するための基盤づくりプロジェクト（新規）	6. 観光を支える担い手の育成・支援	6-1. 観光産業界の人材確保・育成	①観光産業界の人材育成（格上げ）	3.0	3.5
			②観光産業界の人材を確保する環境整備（格上げ）		
	9. 計画推進体制の構築と財源の確保	9-1. 観光推進体制の見直し	①既存組織を含む推進体制の見直し（格上げ）	2.8	2.5
			9-2. 観光振興のための財源の確保		
	10. 計画推進の基盤となる統計の整備	10-1. 統計データの取得・蓄積	①統計データの取得体制の構築（格上げ）	2.8	2.3
			②統計データの共有・活用（格上げ）		

< 施策の取り組み例 >

【9-1】

- 観光関連組織の役割分担とガバナンスの確認

【9-2】

- 後期の目標を再度確認した上で観光財源導入に向けた検討再開

【10-1】

- 各主体の連携によるデジタルマーケティングの実施と情報共有の仕組みづくり（DXを意識した調査方法のトータルな見直し。）